JIC インフォメーション第 225 号 2023 年 7 月 10 日発行(1)



第225号 2023年7月10日 年4回 1·4·7·10月の10日発行 1部500円

発行所:JIC国際親善交流センター 発行責任者:伏田昌義

https://www.jic-web.co.jp

東京オフィス:〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-10-5 岡田ビル 6 階 TEL: 03-3355-7294 jictokyo@jic-web.co.jp

大阪・ロシア留学デスク: 〒540-0012 大阪市中央区谷町 2-2-22 NS ビル 5 階 TEL: 06-6944-2341

はりねずみのジェーニェ







国際交流





写真は、本紙記事より抜粋

≪特集≫ ウクライナ戦争下のロシア語留学 「ロシア以外の国でのロシア語留学」相談会の報告

・・・・・・・・・JIC ロシア語留学チーム・・・2P

インタビュー「カザフスタンでの留学生活」

·····木村 恭輔 (東京外国語大学 学生) ···4P

≪連載コラム≫ こんな時代にロシア語のすすめ

「一方通行通訳の不安」······.....黒田 龍之助·····.アP

《本の紹介》「ゾルゲ伝」(みすず書房)・・・・・・8P

《日口交流情報》日本・ウラジオストク協会、大阪日口協会、 ロシア文化フェスティバル、秋田日口協会、など・・・・・・9P

≪講演録≫ 大阪日口協会講演会

「ロシア;変わる社会、変わらぬ人々」

·····浜野 道博 (モスクワ日本センター前所長) ···11P

≪投稿≫

ウクライナ戦争~待ち望まれる停戦協議····伏田 昌義···18P

(付) ウクライナ戦争をどうとらえるか

JICでは、Jクラブ(JIC友の会)会員を募集しています。 年4回の情報満載のインフォメーションをお届けします。 JIC インフォメーション第 225 号 2023 年 7 月 10 日発行(2)

ウクライナ戦争はまだ停戦の気配が見えません。戦争下、旅行、留学など日ロの人的交流は大きく落ち込んでいます。 しかし、困難な状況の中でもロシア語留学を志す人がいます。若い学生さんには「人生、この時期しか留学のチャンスがない」という人もいます。もちろん、今のロシアに行くのは安全面で心配だという考えもよくわかりますが、私たちは覚悟と勇気をもってロシアへの留学を希望される人には、全力でサポートを提供しています。

JIC は 1989 年以来、30 年以上にわたってロシア語留学のお手伝いをしてきました。現在も、少人数ではありますが、 モスクワ大学、サンクトペテルブルグ大学、極東連邦大学などロシアの大学への留学生派遣を続けています。それはこん な時期こそロシア語を学び、ロシアを深く研究し理解する人が必要だと考えるからです。将来のロシア専門家の卵を応援 することが私たちの社会的使命だと信じています。

しかし同時に、ロシアへの留学を大学や家族から強く反対され、ロシア以外の国でロシア語を学ぶために留学先を探している人もいます。そのような人のために、JICではカザフスタンやキルギスなど中央アジア諸国、またバルト諸国(エストニア、ラトビア)へのロシア語留学にも取り組んでいます。

以下は、JIC ロシア語留学チームが最近行った「ロシア以外の国でのロシア語留学」相談会(6月11日、大阪)の報告です。併せて、今年2月からカザフ国立大学(アルマトイ)に留学中の木村恭輔さん(東京外国語大学)にインタビューして、現地の様子を聞かせていただきました。(編集部)



ウクライナ戦争下のロシア語留学 ロシア語留学の現在位置

6月11日、ロシア語留学相談会の報告

JICロシア語留学チーム

6月11日(日)、大阪市内のロシア料理店「カフェ・ボーチカ」にて、関西日ロ学生交流会セーミチキとJICの共催で、留学相談会「ロシア以外の国でのロシア語留学について」を開催しました。

ウクライナ戦争にともない外務省の海外危険情報でロシアがレベル 3 (渡航中止勧告) に引き上げられたため、多くの学生がロシアの大学への留学を躊躇せざるをえない事態となりました。留学したいと思っても、家族に反対されたり、大学によっては「留学するならロシア以外の国へ行きなさい」と言われたりもします。

「ロシア語をしっかり勉強したい」「ロシア以外の国で、ロシアと同じように、日常生活でもロシア語が話せる環境で、留学できる受入先はないか」。このような要望を受けて、JICでは昨年9月出発の留学生からカザフ国立大学を手配するなど、新しい留学先の開拓に取り組んでいます。

今回はセーミチキの代表者・柴田さんから「ロシア語留学を考えている学生向けの相談会を企画したい」との提案を受け、JICが協力して一緒に開催することになりました。

相談会には、大阪大学や京都外国語大学の学生とJIC ロシア語講座の受講生、計8名が参加。JIC ロシア語留学チームの小原と岡本が説明・相談にあたりました。カフェ・ボーチ

カさんのご厚意で会場にはロシア紅茶とジャム、お菓子が並 び、くつろいだ雰囲気で相談会が始まりました。

参加者は大学 1-2 年生が多く、ロシアにも行ったことのない人がほとんどでした。そこで、まずは JIC が現在留学生を送り出しているロシアおよびロシア以外の国の大学・教育機関の紹介を中心に説明を行いました。

以下、相談会で出されたいくつかの特徴的な質問をとりあげ、ロシア語留学の現状を紹介します。

「現在、ロシアのビザは出るのですか?」

参加者の一人から、相談会の開始前に「現在、ロシアのビザは出ないのでは?」と質問がありました。旅行の問合せで電話してくるお客様の中にも、「今はビザが出ないからロシアに行けないけど、・・・・」と言う人がいます。

しかし、誤解しないでください。実際のところロシアは日本人へのビザ発給を制限しておらず、留学であれ旅行であれ希望する人は誰でもロシアに渡航することができます。ロシアの大学はこれまで通り日本人を含む外国人留学生の受け入れを続けています。ロシアに対し海外危険情報レベル3を出しているとはいえ、日本もまたロシア人に対して通常通りビザを発給しており、現にたくさんのロシア人観光客が日本を

訪れています。

「普通にビザが出ているのに、なぜ外務省はロシアに危険情報レベル3を出しているのですか?」

ウクライナ戦争の開始と同時にアメリカ・ヨーロッパ・日本はロシアに対して厳しい経済制裁を科しました。最大の制裁措置は金融制裁で、日本をはじめ西側からロシアの銀行へ、ロシアから西側の銀行への送金が非常に困難になりました。また日本や欧米諸国で発行されたクレジットカードはロシア国内で使えなくなりました。

さらに、欧米諸国がロシア航空機の乗り入れと領空飛行を禁止したため、ロシアも対抗措置として欧米航空会社の飛行禁止措置を取りました(ちなみに日本の航空会社は自主規制でロシアへの乗り入れを停止しているだけで、厳密にはどこからも制限は受けていません)。

このように、ロシアへの渡航は、①航空ルートが極めて限られており、②クレジットカードが使えないなど滞在に支障をきたす恐れがあるため、日本外務省は海外危険情報でロシアをレベル3(渡航中止勧告)にしたわけです。レベル3の理由は、決して「対ロシア制裁」ではありません。実際に日本とロシアが戦争をしているわけではないので、お互いにビザ発給は通常通り続いているのです。

「ロシアでの留学生活にどんな支障がありますか?」

最大の問題は、留学中の生活費の調達手段が限られていることです。日本からの銀行送金が難しくなったので、出発時に滞在に必要なだけの現金を持って行くとか、現地で制裁対象になっていない銀行で口座を開きそこに送金してもらうといった方法で対処しています。

しかし、ロシア現地での生活は、モスクワやウラジオストクに滞在している日本企業の関係者に聞いた話では、平穏そのものです。物不足になっているわけでもなく、スーパーには商品が溢れており、ネットで海外情報とも容易に接続できます。いくつかの困難はありますが、留学生活そのものは現在のところそれほど不自由がない状況です。

「ロシア以外の国でロシア語留学できるのは、どんな大学が ありますか?」

現在 JIC で手配可能なロシア語留学の研修先には、以下の 大学等があります (7月10日現在)。

カザフスタン;**カザフ国立大学**(アルマトイ)

キルギスタン ; **スラブ大学**、**ビシケク人文大学**

ベラルーシ: ミンスク国立言語大学

ラトビア; ダウガフピルス大学、LIDEN & DENZ 語学学校

エストニア; タリン大学

アルメニア; モスクワ大学エレヴァン校

いずれも一長一短がありますが、ロシア語教育の長い伝統

と実績を持つ大学ばかりなので、ロシア国内の大学で学ぶの とほぼ同等のロシア語留学を体験することができます。

ただし、特に中央アジアの大学については、JIC としても 最近連絡を取り始めた大学が多く、留学生受け入れの条件や ルールが今一つ不明確なところがあります。確認事項が度々 変わり、手配がスムーズに進まないことがあります。

「ミンスク言語大学ですが、ベラルーシはウクライナに隣接 しているので危なくないですか?」

ベラルーシに対しても、日本外務省はロシアと同じく海外 危険情報のレベル3を発出しています。ただし、戦争当事国 ではなく、経済制裁の影響もさほど大きくないため、大学へ の授業料の送金などは従来通りできています。クレジットカ ードも利用が可能です。現在、ミンスクに留学中の人が1人 いますが、平穏な留学生活を送っていると聞いています。

「JIC の場合、何かあったときのヘルプ体制はどうなっていますか?」

JIC はモスクワやサンクトペテルブルグに現地係員を配置していますが、通常は、留学先に到着して現地生活に慣れるまでの間が一番トラブルが多いので、留学初期のお世話を中心にヘルプ体制を組んでいます。初期を過ぎて慣れてきたら、留学生活のさまざまな問題は自分自身で解決してもらうのが基本です。ロシア語を使って問題解決能力を養うのも留学の一つの目的です。

ただし、個人の力では対処できない大きな問題が起こることもあります。そういう場合は、JIC は現地係員や受入先大学の担当者などとともに、全力でサポートします。例えば、2020 年春に新型コロナで世界中で出入国が急激に制限された時期には、現地日本大使館などとも連携して、帰国フライトの確保を緊急に行いました。留学先の大学と学費や寮費の返金交渉と確認を行ったり、オンライン授業への切り替えについて情報提供を行ったりもしました。

*

一通り説明を終えた後にスタッフの学生時代の話になりました。(JIC スタッフが留学した)「30 年ほど前はインターネットがなく、テレビやラジオでしか情報が得られませんでした。クレジットカードも使えなかったので、生活費は全て現金で持って行き、寮の部屋でスーツケースに鍵かけて管理していました。卵を買うために行列に並んだこともありましたよ」と、ソ連時代末期の物不足の頃の思い出話をしたのですが、あの時代に比べると、留学環境は格段によくなりました。とはいえ、ウクライナ戦争が終結しない限りロシア語留学にはこれからも様々な困難が続くと思われます。

一日も早く戦争が終わり、希望する若い人が何の制限もなく安心してロシア語留学できる日が来ることを、留学チーム 一同待ち望んでいます。 JIC インフォメーション第 225 号 2023年7月10日発行(4)

ロシア語留学の現在位置(2)

カザフスタンでの留学生

【インタビュー】留学中の木村恭輔さんに間

ロシア以外の国での留学情報の一例として、今年 2 月末からカ ザフスタン国立大学(アルマトイ)にロシア語留学している木村恭 輔さん(東京外国語大学)にオンラインで話を聞きました。(インタビ ュー日:23年7月6日/聞き手;JIC小原、岡本)

―― まずは自己紹介からお願いします。

東京外国語大学学生の木村です。今年2月末から10カ月間 の予定でカザフスタン国立大学に、同じ東京外大の I 君と一緒に 留学しています。こちらに来てちょうど4か月くらい経ちます。

―― カザフ到着時の様子を教えてください。大学の留学担当者 はちゃんと空港に出迎えてくれましたか?

予定していた宿舎(アパート)にすぐ住めるかどうかわからなかっ たので、現地旅行社でホステルを予約していたのですが、大学の 留学担当で日本語ができるベクスルタンさんと旅行社手配の運転 手さんの両方が出迎えてくれました。2人で大きなトランク4個持っ て行ったので荷物が車1台には載らなくて、ベクスルタンさんに荷 物の一部をホステルまで運んでもらいました。

昨年9月からこの4月まで留学していた方と連絡を取っていて、 その人のアパートにちょうど僕とI君と3人で住めるということで、予 約したホステルには結局1日しか滞在せず、次の日にはそのアパ ートへ移動しました。

到着翌日に、大学の留学センターへ行ってビザ関係の書類を 書き、その後ベクスルタンさんが車でホステルからアパートまで送 ってくれました。

- 授業はいつから始まったんですか。レベルチェックは?

到着が火曜日で、次の日に大学でビザの手続きをして、その次 の日にテストがあるのかなと思ったら「金曜日にしてくれ」と言われ て、レベルチェックを受けたのは到着後3日目でした。そして次の 週から授業が始まりました。日本の大学のゼミ室のような小さな教 室です。

大学の授業について簡単に説明すると、JIC を通して留学した 人たちは「文献学部」でロシア語を学んでいます。この大学に来た 時期に応じてクラスが編成されている感じで、僕とI君は2月に来 て、他に同時期に来た学生がいないので、日本人2人で勉強して います。9月の新学期から来たら人数が多いはずなのでレベルに よってクラスが分けられるのでしょうが、僕たちの場合は2 人クラス です。1人の先生がそのクラス全ての授業を担当しています。先生 によって使う教科書が違うようで、授業内容も違っています。



木村恭輔さん(東京外国語大学 学生)

東京外大から交換留学で来た人たちは「準備学部」に入ってい て、メインキャンパスからバスで 30 分ぐらい離れた別のキャンパス に通っています。準備学部は、こちらの 9 月に始まるセメスター制 (学期)で動いているので、試験期間とか休みの期間もほぼ正規 学生たちと同じように編成されているのですが、僕たちがいる文献 学部は授業の進め方も休みも結構自由でフレキシブルです。今、 準備学部は夏休みに入っていますが、僕たちは違う時間で動い ているので、まだ授業が続いています。

大学と事前に確認した内容では、夏休みはなくて、ずっと連 続して授業を受けると聞いているのですが、夏休みは本当にない のですか?

僕たちは週8コマ(60分×8回)の授業を受けていて、その8コ マをこの6~7月は少し多めに受けて、その分で8月の最初の2 週間を夏休みにしようと言われています。

例えば、隣のキルギスとかウズベキスタンに旅行したいとか、首 都のアスタナに行きたいという場合、これは先生と相談して了承が 得られればの話ですが、週の後半を休みにしてもらうために授業 時間を前半にまとめてもらうといったことも可能です。

―― 授業は、会話とか発音、文法という形で分けられているの ですか? あるいは、一つの教科書だけで授業が行われている のですか?

僕たちの場合は、一つの総合的な教科書があって、その中に 文法があったり、長文があったり、テーマに沿って作文したり、発表 をしたりという形で授業が進められています。文法とか会話とかに 分かれているわけではありません。別の学部の人たちは、おそらく 文法とか発音とか毎回違う先生が来て、教科ごとに分かれていると 思うのですが、僕たちは一人の先生が総合的な教科書を使って 授業を進めています。

- 授業以外の時間はどんなことをしていますか?

準備学部の人たちと違うところは、僕たちの授業時間は週8コ マで、毎日授業があるわけではないことです。基本的には、僕たち は週3回大学に行って、1日3時間勉強する日が2日、1日2 時間勉強する日が1日あります。22年9月から来た留学生は4 人か5人いたので、週5日毎日3時間の授業をやっていたようで す。 僕たちはそんなにツメツメというわけではないので、I 君は空手

JIC インフォメーション第 225 号 2023 年 7 月 10 日発行(5)

部だったので空手道場に週2~3回行ってますし、僕は大学で社 交ダンスをやっていたので、最近ダンスに通いだしています。こち らに来た当初一緒に住んでいた先輩は、ピアノ教室と発音矯正の 教室に行っていました。

準備学部の人たちは多分週 5 日授業が入っていると思うのですが、自分たちは授業のコマ数が少ない分、別のところに時間を使っています。授業のコマ数が少ないのはちょっと気になりますが、2人だけのクラスなので5~6人とかでやるのとはまた違って、濃密な授業を受けている感じではあると思います。

— 大学でのキャンパス生活はどうですか?

僕たちのいる文献学部はメインキャンパスにあります。広くて、学 生も相当たくさんいます。

文献学部にはいろんな国の留学生がいます。特にインドからの学生が多いです。留学生団体のようなものもあって、一度集まりに行ったことがあります。正規の学生として学んでいる人が主にやっている団体で、短期というか1年くらいしかいない人はあまり関わっていない印象です。

―― 学生同士の交流はあまりないのですか?

僕はそんなに参加できてないのですが、準備学部があるキャンパスには東洋学部というのがあって、日本語や韓国語、中国語などを学んでいる学生たちがいます。その日本語科の学生たちが週1回「日本語会話クラブ」というのをやっているので、I君はよく参加しています。交換留学で準備学部に来ている日本人学生も参加していますし、カザフ大学で日本語を勉強している学生と交流する機会はかなりあると思います。

―― 準備学部の留学生は大学寮に住んでいると思うのですが、 学生寮に行ったことはありますか?

学生寮の前まで行ったことはありますが、中に入ったことはまだ ありません。聞いた話では、シャワーを使える日や時間が制限され ていて、とくに女性には不便なようです。たまに日本人留学生みん なで飲み会をする時も、僕たちはアパートを借りているので門限が ないですが、寮は10時か11時かちゃんと門限があるそうです。

—— アパートでの生活はどうですか?

アパートの壁が薄いので近所つきあいには気を遣っています。 隣の人に「夜遅くはうるさくするな」と言われますし、前に住んでいた先輩からの申し送りで、夜 10 時以降はシャワーを浴びないとか、洗濯機を回さないようにしています。

一度、10 人くらいの学生がアパートに来た時があって、下の階の人に「うるさいよ」って注意されて、それは僕たちが悪かったんですけど、以後、夜 10 時以降は友達を呼ばないようにしました。ちょうど 2 か月ほど前にお隣さんが部屋のリフォームを始めたときは困りました。 異常に音がうるさくて、その時期は昼寝もできないし、集中して勉強できないので図書館へ行ったり、カフェに行ったりしました

―― 生活面の質問ですが、買い物はどうしていますか?

お金の支払いはほとんどカードです。クレジットカードで払えると ころは VISA のデビットカードを使っています。カザフスタンでは、 日本のPayPayのような支払いシステムが広まっていて、カスピ銀行の口座にお金を入れてカスピで支払うというシステムがほぼ全ての店で導入されています。「支払いはカスピだけ」という店もあります。カザフに来てから空港で一度両替したのですが、その後カスピを作ってからはほぼ現金を持ち歩いてないですね。カスピロ座にお金を補充するためにATMからお金を引き出して口座に入金する時しか現金を使わない生活です。

―― カスピ銀行の口座はすぐに開設できましたか?

カザフに来て重要なことの一つはカスピロ座を作ることですが、そのためには個人識別番号 ИИН (Индивидуальный идентификационный номер)を取得する必要があります。日本のマイナンバーのようなものです。ИИН を取るためにはパスポートの公証訳が必要で、到着翌日にアパートに移った時に、先輩に一緒について行ってもらって、公証人に公証訳をしてもらい、それを役所に持って行ってИИНをもらいました。ИИНを取得するとカスピ銀行の窓口でパスポートと公証訳を提示して口座が作れます。銀行での待ち時間は10分程度です。

―― それは留学担当のベクスルタンさんが補助してくれたのではなく、アパートに住んでいた先輩の方が一緒について行ってやってくれたのですか?

優しい人だったので、一緒についてきてくれました。カスピ銀行 へは I 君と二人で行きました。ベクスルタンさんも日程が合えばちゃんとやってくれます。昨年 9 月に来た人たちは、家を探す時や 口座を開く時に彼に手伝ってもらったと聞いています。

僕もI君も、今年9月にJICから留学する人がいればご近所さんになる可能性が高いので、時間が許す限り手伝ってあげようと思います。

―― カスピ銀行で口座を作ったらキャッシュカードもその場です ぐもらえるのですか?

口座ができたらまずアプリを入れろと言われて、そのアプリでいろいろなことができるのですが、カードもすぐに渡されます。カスピ銀行の口座にお金が入っていれば、スマホで支払いができるし、カードはデビットカードとして支払いても使えます。

で、アプリに自分の電話番号を紐づけて、アプリを使っている人 同士でお金のやり取りができます。ですから、友人とコンサートに 行くとか一緒に食事するとかいう場合、誰かがまとめて支払って、 そのあと「〇〇テンゲを私の口座に送金して」というような形で支払 うことが多いです。また、日本のクレジットカードがたまに使えない ことがあって、そういう時にカスピ銀行のカードで支払えるので、カスピのアプリとカードは結構重要ですね。

—— 昼食は学食かカフェですか?

学食はありますが、すごく安いわけでもなく、すごく美味しい わけでもありません。出来合いの料理が並んでいて、それをいくつ か皿に入れてもらい、電子レンジで温めて食べる、みたいなものが 結構多いです。

僕たちはあまり大学の学食は利用しておらず、アパートと大学 の間にケバブ屋さんみたいな屋台があって、結構安くて 1000 テ JIC インフォメーション第 225 号 2023 年 7 月 10 日発行(6)

ンゲ(約300円)くらいでお腹いっぱいになるので、お昼はそれで済ませてしまうことも多いです。それから近所に食堂があります。日本より安くて600円くらいですが、こちらはお水が無料では出てこないので、飲み物代を入れると日本と同じくらいお金かかったなということもあります。おしゃれな店だと日本と同じかそれ以上にお金がかかる店もあります。

— 通信の話ですが、アパートではWi-Fi がありますね。外に出た時はSIMで通信をしているのですか?

はい、SIM の定額通信です。6ヶ月契約で約6000円だったので、1か月1000円かかってないです。通信容量も10ギガで悪くないし困ることはないです。

学生寮の人たちに聞いてびっくりしたのですが、寮には Wi-Fi がないか、あってもすごく弱くて、ほとんど使えないという話を耳にしました。大学内のWi-Fiも弱くて、ちゃんと使える感じではないですね。

―― 治安の状況はどうですか?

僕はこちらに来てから怖い経験をしたことがありません。夜も結構人が歩いていて、僕も散歩したりしますし、アルマトイ市内であれば怖くないです。バス内でスリの被害があるといった話も聞いたことがありません。

タクシーも安くて安全です。Yandex Taxiのアプリがあって、時間帯によって値段が変わるのですが、夜の移動でも 2~3 人で乗れば一人数百円なので、タクシーをよく利用しています。

―― 住環境で、今のアパートは何か問題がありますか?

問題というわけではないですが、こちらに来た当初はまだ寒い時期だったですけど、室内の集中暖房(アタプレーニエ)がよく効いていて、家の中や大学の中はとても暖かくて、ほぼ半袖で大丈夫という状況でした。それで、逆に屋内と屋外の調整が難しいというか、外に出て移動する時だけ暖かくして室内に入ったらすぐ脱げるような状態にしたいのですが、調整しやすい服が少なくて困りました。寒さに備えてタートルネックを持ってきたのですが、学校に入るとすぐ暑くなって耐えられないので、調整しやすい服があった方がよかったなと思いました。

――冬の集中暖房はつきっぱなしなんですか?

強制的に、多分勝手について勝手に止まるようです。誰も調整 できない感じですね。

なので、集中暖房が切れてしまった春はしばらくすごく寒いです。 3月か4月に突然切れて、そしたら冬よりも寒くなって、それまでは 半袖で寝ていたのが、本当に長袖長ズボンで毛布にくるまって寝 るということになりました。

二、これから暑くなってくる季節はどうなりそうですか?

外は日が出ている時間帯は日差しが強く暑いですが、夜になれば涼しくなります。ただ、建物の通気性というか、ほぼ外の空気を通してくれないので、室内が暑くなってしまって、最近扇風機を買ってしまいました。冷房はアパートにも、大学の教室にもついていないので、結構さついです。

―― 水道の水はそのまま飲めるのですか?

僕は一切飲んでいないです。水道水は料理にも使っていません。飲料水は、最初のころはスーパーで8リットルほどのボトルを購入していたのですが、最近は、ボトルを持って行くときれいな水を入れられる販売所がアパートのすぐ近くにあって、スーパーよりも安く買えるので、そこで補給しています。8 リットル=80 テンゲ(約25円)です。

これは水のせいかどうかわかりませんが、「カザフに来てすぐの時期はみんなお腹壊すよ」と言われましたし、それ以降もちょくちょく壊しました。周りの留学生を見てもお腹を壊す人が多くて、何が原因なのかはわかりませんが、整腸剤等は必ず持ってきたほうがいいですね。

— アルマトイの市内に出かけるときは、タクシーか公共交通を 使えば、どこにでも行けますか?

タクシーも安いですがバスもすごく安いです(料金は80テンゲ =約25円)。オナイ(ONAY!)という、日本で言えばPASMOのようなアルマトイの交通カードを買って、アプリとつなげると便利です。30~40分あればほぼどこでもバスで行けるので、基本はバス移動にしています。時間がない時やバスで行きづらい場所はタクシーで行くという感じです。地下鉄もあるのですが、路線が1本しかなくて使い勝手が良くないので、バスとタクシーがほとんどです。ただ、バスは夜10時、11時以降はなくなってしまうので、そうなるとタクシーを使うことになります。

―― カザフスタンで生活して、カルチャーショックはありますか?

面白いなと思ったのは、バスなどの座席は高齢の人が来たら必ず譲るという習慣です。おばあさんたちは、こちらが座っていると直接来て、「譲れ」と言ってきたりします。譲るのが当たり前になっています。

若い男性だと、いつ立たないといけないか分からないから最初から座らないという人も多いです。僕も日本でなら座って寝てしまったりするのですが、こちらではいろいろ気を張って乗っています。もちろんすごくいい文化だと思います。お年寄りだけでなく女性にもすぐに立ち上がって席を譲りますし、とてもいいことだと思います。

バスの運転は、急ブレーキやあおり運転、それにしょっちゅうクラクションを鳴らして、結構荒っぽいです。でも歩行者に対しては横断歩道でちゃんと止まってくれるところが、面白いと思います。

―― カザフ語を勉強したいと思ったことはありますか?日常会話 はロシア語だけでも大丈夫ですか?

ほとんどすべての表記がロシア語とカザフ語の両方書いてあるので、ロシア語ができれば日常生活に支障はありません。機会があればせっかくなのでカザフ語もやってみたいと思うのですが、日本語での適当な教材がないのと、ロシア語もまだ全然できないので、まずはロシア語に力を入れたいと思います。I 君は僕よりもロシア語ができるので、カザフ語の教科書を買ってきて独学でやってたりします。

※ カザフの通貨・テンゲ;1円=3.15 テンゲ(23年7月12日のレート)

JIC インフォメーション第 225 号 2023 年 7 月 10 日発行(7)

こんな時代にロシア語のすすめ

第4回

「一方通行通訳の不安」

黒田 龍之助

世界の言語に広く興味があり、ふつうの外国語教師よりは 多めに外国語を学んできたわたしですが、だからといって世 界中の言語を習得したわけではありませんし、制覇するつも りもありません。どの言語にも敬意は払うものの、すべて勉 強することは不可能です。なによりもわたしはロシア語教師 ですから、ロシア語と関係の深い諸言語を勉強してきたわけ で、偏るのは当然。そこに文句を言われても困るんですよね。

旧ソ連は多民族・多言語国家でした。共和国ごとに独自の言語があって、わたしにとってはそういう言語に触れることが、現地を訪れる楽しみの一つだったのです。とはいえ JIC の通訳として旧ソ連各地を飛び回っていた 1980 年代は、ロシア語以外ほとんどできませんでした。ウクライナ語、ベラルーシ語、リトアニア語を勉強するのは、ずっと後のことです。

ソ連内の諸共和国はすべてロシア語で済ませられたと想像するかもしれませんが、そうとは限りませんでした。ロシア語が苦手という方もいらっしゃいましたし、自分のアイデンティティーとして民族語を話したいという方にも会いました。

日本の親善団体を連れてエストニアへ行ったときのことです。訪れたのは首都タリンだったのですが、ある施設を案内してくださった所長さんはエストニア語しか話しません。そこで現地通訳が登場します。つまりエストニア語とロシア語の間を取り持つ通訳です。この人を介してわたしがロシア語と日本語を繋ぎます。エストニア語→ロシア語→日本語の順に通訳するわけです。ちょっと面倒ですが、歓迎のあいさつくらいならそれほど困りません。ところがお互いの意見交換になりますと、エストニア語→ロシア語→日本語と日本語→ロシア語→エストニア語が何回も繰り返されることになります。通訳も大変ですが、されるほうも目まぐるしく感じることでしょう。それでもわたしにとっては、こういう状況にこそ多言語社会が強く感じられ、大変ではあったものの、小の中では楽しんでいたのです。

ソビエト連邦はどの共和国にもたくさんの言語がありました。現代のロシア連邦のタタール語、チェチェン語、バシキール語、チュヴァシ語などは話者人口が百万人を超えているそうですし、他にもたくさんの言語が話されています。ちなみにタタール語は今では日本語による入門書も出版されて



います。

サハリンの子どもたちといっしょに

しかし話されているのは、このような「ロシア連邦オリジナル言語」だけではありません。

たとえば朝鮮系の人が話す言語。これを何と呼ぶのが適切なのか、判断するのが難しいのですが、ここではその言語を朝鮮語、人々を朝鮮人としましょう。彼らの祖先は半島の南からも北からもやって来ました。

旧ソ連には朝鮮語を話す人がたくさん暮らしていました。 その歴史的経緯は長く複雑なもので、日本人に対しては否定 的な感情があるのではと想像していたのですが、わたしが出 会った人々はみな素朴で親切でした。

ウズベキスタンに友人と出かけたのはソ連崩壊後のこと。 大学の韓国語専攻で学んだ友人は、現地で朝鮮人を見つける と果敢に話しかけました。とくに市場。首都タシケントの市 場で働く勤勉な朝鮮人たちは、店先に農産物やキムチを並べ、 商売熱心に声をかけてきます。そんな売り子に友人が朝鮮語 で話しかけるとびっくり。

「あんたは朝鮮人なのかね?」

当然の質問でしょう。ところがその質問する言語が朝鮮語ではありません。

ロシア語なのです。

ウズベキスタンに長く暮らす朝鮮人たちは、朝鮮語を理解 することはできるものの、自ら話すのは苦手となってしまっ た人が数多くいました。口から出るのはロシア語だけです。

そこでわたしがロシア語で返事をします。彼は日本人ですよ。すると今度はわたしに、ロシア語のできるお前こそが朝鮮人なのかと尋ねてくるので、やはり違うと答えるのですが、相手はさっぱり理解できません。外国人観光客2人のうち、ひとりは朝鮮語と話し、もうひとりはロシア語を話すのに、2人とも日本人。そりゃ混乱するわけです。

朝鮮語を話す人にたくさん会ったのは、サハリンでした。 1990年代はじめ頃、JICが「民族問題を考える旅」という JIC インフォメーション第 225 号 2023年7月10日発行(8)

のを企画しました。わたしはその通訳として同行し、はじめ てサハリンの土を踏みました。ハバロフスクから飛行機で飛 んだのですが、州都ユジノサハリンスクの空港でパスポート の提示を求められたのには驚きました。すでに入国手続きは ハバロフスクで済んでいるはずなのに.....。サハリンはさら なる外国なのでしょうか。

旅行に参加したのは10名足らずだったと記憶しています。 そのうち2人が朝鮮語を話しました。1人は在日韓国人の青 年ですが、彼はそれほど朝鮮語ができません。もう1人の女 性はこの青年の友だちで、長いこと朝鮮語を勉強してきたそ うで、かなり流暢に話していました。

旅行では観光名所だけでなく、特別な施設や機関も見学し ました。朝鮮語新聞社見学というのがあって、そのときは編 集長自らが案内してくださり、さらに会議室でお茶とお菓子 が振舞われ、質疑応答となります。積極的に質問したいのは、 やはり在日韓国人の青年と朝鮮語を話す女性です。もちろん 朝鮮語で質問します。青年の朝鮮語が足りないときは、女性 が助けてくれます。となれば、わたしは通訳の必要がありま せんね。そう考えたのですが、予想は見事に外れました。

彼らの朝鮮語の質問に対して、編集長はロシア語で答える のです!

これには驚きました。

タシケントの市場で働く人と違い、新聞社の編集長ともな れば朝鮮語は仕事の一部です。それなのに、朝鮮語の質問に 答えるのはロシア語なのですか?

「確かに朝鮮語の記事は校正しますし、自ら書くこともあ ります。しかし会話となるとあまり自信がないのです。すみ ませんが、通訳をお願いします」

ということで、わたしは編集長の発言を日本語に訳さなけ ればなりませんでした。

もっともロシア語から日本語に訳すだけなら、ふつうだっ たら楽なはずです。いつもと違い、日本人の発言部分はロシ ア語に訳す必要がないのですから。

ところが違いました。むしろ負担は大きかったのです。

考えてもみてください。わたしは朝鮮語ができないのです。 ということは質問の内容がわかりません。それなのに編集長 の回答を訳さなければならないのです。

こんな難しい通訳ははじめてでした。

わたしは何度も、青年と女性に確認しました。話の辻褄は あっていますか。質問に対する答えになっていますか。

2人はまったく問題ないといってくれるのですが、わたし は最後の最後まで不安でした。

しかしこういうことがキッカケで、わたしは朝鮮文化が好 きになりました。日本が韓流ブームになる遥か以前の話です。 のちにはその言語も少しだけ学ぶことになります。ロシア語 を通して朝鮮語に興味を持つなんて、まったく奇妙な話です が、わたしはロシア語が繋いでくれたこんな出会いが密かに 自慢です。

こうしてまた、他の外国語教師よりも多くの外国語に首を 突っ込むことになっていくわけです。



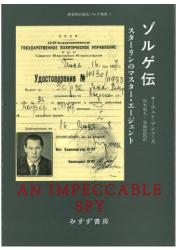






新資料が語るゾルゲ事件シリーズ2

「ゾルゲ伝 スターリンのマスター・エージェント」



オーウェン・マシューズ著 鈴木規夫・加藤哲郎訳 みすず書房/四六判552頁 定価;6270円(税込)

「ゾルゲ・スパイ事件」 (1941 年 10 月摘発、42 年 5 月公表) については、 その真相を解明すべくすで に多くの書籍が出版されて いる。従来の研究書や評伝

は、主に当時の特高警察の資料~被告・関係者の供述、押収 資料、裁判記録などをもとに叙述されてきたが、21世紀に入 ってソ連崩壊後にロシアで公開された新資料、ドイツや日本 で新たに発掘された資料に基づき、事件の全体像を解明する 研究が活発化している。いわば戦後の東西冷戦下に作られた 「スパイ・ゾルゲ像」を見直し、新資料に基づいて等身大の ゾルゲ像を解明する試みである。

本書は、それら新資料と最新研究をもとに描き出した、現 時点で最もよくまとまった「ゾルゲ伝」である。

リヒアルト・ゾルゲ (1895~1944 年) は第一次世界大戦 でドイツ軍に志願、三度負傷して除隊後、ドイツ共産党に入 党してドイツ革命に加わった。革命は失敗に終わったが、コ ミンテルン(共産主義インターナショナル)の活動家として モスクワに移籍、国際連絡部で働いた。

赤軍参謀本部の諜報員として上海で2年間の活動を経た後、 ゾルゲは 1933 年に東京へ派遣される。オット一駐日ドイツ 大使の親友で日本と中国に詳しいジャーナリストとして大使 館にデスクを持ち、同時に朝日新聞記者で近衛文麿内閣の嘱 託を務める尾崎秀実らとともに諜報グループを形成して、日 本とドイツの重要機密を手に入れモスクワに打電した。ジャ ーナリスト・ゾルゲが書き送る日本の政治分析や中国情報記 事はドイツでも高く評価された。

ゾルゲ・グループの最大の成功は、1941年6月ドイツの

JIC インフォメーション第 225 号 2023 年 7 月 10 日発行(9)

ソ連侵攻(独ソ戦)情報を正確に伝え、一方で日本が北進(対ソ戦)するのではなく南進(対米英戦)することを日米開戦の3か月前にモスクワに打電したことである。独ソ戦情報はスターリンに無視されたが、日本の南進情報はドイツに攻め込まれて苦しむソ連指導部に力を与え、第二次大戦の帰趨にも決定的影響を与えたと著者マシューズは記している。

第一次大戦から第二次大戦にいたる日中独ソの革命運動と 情報戦に殉じたゾルゲの生き方は、社会主義が一つの理想で あった時代の人間像として共感を呼び起こす。(F)

〈日口交流情報〉

日本ウラジオストク協会総会(4月16日)毎月「懇談サロン」開き、活発な活動

4月16日、東京・上野の黒船亭にて、日本ウラジオストク協会(藤本和貴夫会長)の2023年度総会と講演会がオンライン併用で開かれました。総会では前年度活動報告と今年度活動計画、決算・予算が確認され、その後、「最近のモスクワ事情」と題して斎藤大輔さん(ロシアNIS貿易会)の講演が行われました。

コロナ禍とウクライナ戦争で、日本ロシア協会など多くの 交流団体の活動が低調を余儀なくされている中で、日本ウラ ジオストク協会は毎月のように懇談サロンを開催するなど、 目立って活発な活動を続けています。

5月15日の懇談サロンでは日本航空の東康太さん(元ウラジオストク支店)が「2023年2月のウラジオストクの状況」と題して報告、6月4日の懇談サロンでは本紙第224号で紹介した『ロシアからブロードウェイへ~オスカー俳優ユル・ブリンナー家の旅路』(群像社)を翻訳・出版した樫本真奈美さん(同志社大学ロシア語講師)が創成期ウラジオストクの建設と発展に深くかかわったブリンナー家の軌跡を多数のスライドを使って紹介されました。

大阪日口協会が講演会(6月3日)「ロシア;変わる社会、変わらぬ人々」

6月3日、大阪市中央区のドーンセンターにて、大阪日ロ協会(藤本和貴夫理事長)の講演会が開催されました(オンライン併用)。講師は、2014年からモスクワ日本センターの所長を務めこの3月末に帰国されたばかりの浜野道博氏。最新のロシア事情を聞こうと、会場とオンライン合わせて約50名が参加し、「ロシア;変わる社会、変わらぬ人々」をテーマに、ウクライナ戦争下のモスクワ生活やロシア社会の変化についての講演に聞き入りました(講演録は11~17頁に収録しています)。

日口友好愛知の会が定期総会と講演会を開催(6月17日)

一般社団法人日ロ友好愛知の会(小林功理事長)の第8回 定期総会が、6月17日、名古屋国鉄会館にて開催されました。 愛知の会は、クラスノヤルスクのシベリア抑留死没者慰霊碑 へのオンライン墓参など、コロナ下でも創意工夫を凝らして 日ロ交流を続けてきました。今年も8月下旬に「世界ドスト エフスキー学会」が名古屋市で開催されるのを機に、その主 催者である亀山郁夫先生(名古屋外国語大学学長、愛知の会 特別顧問)の講演会やピアノコンサートなどが企画されてい ます。

なお、総会後の講演会では、「日ロ人的交流の現状」と題して、当センターの伏田昌義副会長がウクライナ戦争下でのロシア渡航や留学事情について話をしました。



イーゴリ・ロマネンコ氏追悼コンサート ロシア文化フェス組織委が開催(6月10日)

6月10日、東京の浜離宮朝日ホールで「イーゴリ・ロマネンコ氏追悼コンサート」が開催されました。ロマネンコさんはロシア日本協会の会長でロシア文化フェスティバルロシア組織委員会副委員長を務め、文化フェスティバルの事業や日ロ交流に長年尽力されました。昨年6月に急逝した同氏の一周忌に際し、その功績を偲び今後の日ロ交流発展の契機とすべく、文化フェスティバル日本組織委員会の主催でコンサートが企画され、日ロ協会や日ロ交流協会とともに当センターも賛同団体に加わりました。

コンサートでは、親交のあった音楽家・声楽家たちがロシア民謡やラフマニノフの曲などを演奏、また日本舞踊、三味線、尺八の演奏もあり、日本を愛したロマネンコさんの追悼にふさわしい集いとなりました。

なお、ロシア文化フェスティバルでは、ゴーゴリ没後 170年記念映画祭 (5月 26日)、シャフナザーロフ映画祭 (6月 23~24日)、ロシアの新星 2023 コンサート (7月 25~27日)など、今年も多くのイベントが企画され、実施されています。

JIC インフォメーション第 225 号 2023 年 7 月 10 日発行(10)

7月28日には東京千代田区の紀尾井ホールで、今年のロシア文化フェスティバルのオープニングコンサートが開催される予定です。ロシア文化フェスティバル2023年のプログラムは、ホームページでご確認ください。

http://www.russian-festival.net/program.html

5月13日、明治大学で講演会 ゾルゲ事件の最新の研究状況

5月13日、明治大学平和教育登戸研究所の主催で「ゾルゲ事件についての最新の研究状況」をテーマに講演会が開催されました。講師は、尾崎=ゾルゲ研究会代表で一橋大学名誉教授の加藤哲郎氏。近年ロシアで進んできた旧ソ連の関係資料の公開と、それらもとに出版された評伝、研究書を踏まえて浮かび上がってきたいくつかの論点や今後の研究課題が話されました。

日口協会が講演会(5月16日)

5月16日、日本・ロシア協会(高村正彦会長)の講演会と 親睦会が東京で開催されました。講師は、秋田日ロ協会の佐々 木三知夫理事長。「縁・運・恩への対岸交流~2つの条約締結」



と題して、秋田県由利本荘市の「夕陽の見える日露友好公園」内に 1992年に設置された露国遭難漁 民慰霊碑の建立のいきさつや、秋田日ロ協会がロシア沿海地方ロ日友好協会と締結した「秋田犬条約」 (2018年)の話など、秋田の土地に根差した日ロ交流活動の報告がなされました。

<講演要旨>

「縁・運・恩への対岸交流~2つの条約締結」

佐々木三知夫 (秋田日口協会理事長)

露国遭難漁民慰霊碑の建立

1932年(昭和7年)12月1日、ウラジオストク・ルースキー島の漁民4名を乗せたロシアの漁船が秋田県由利本荘市の深沢海岸に漂着した。漁船は全長約8メートルの「クンガース号」で、イワシ漁のため日本海に出たものの暴風雨に見舞われて11日間漂流し、この日地元民によってようやく救助された。4名のうち3名は生存していたが、16歳のガブリリューク・ニコライ少年は死亡しており、村民の手で共同墓地に手厚く埋葬された。生存者3名は秋田から鉄道で福井県

敦賀に出て、「ニッポン ミナサン サヨウナラ」の言葉を残して帰国した。

ニコライ少年だけがこの地に眠り続けて58年。1990年秋にこの共同墓地を訪れた時には驚いた。墓地は荒れ果てて、ほとんどゴミ捨て場になっていた。「これはいけない」と思い、深沢地区先人の善行を将来に伝え、日本海をはさんだロシア沿海地方との交流を深めるために、露国遭難漁民慰霊秋田委員会・日ロ親善交流推進深沢委員会を結成し、寄付金を募って慰霊碑を建立した。漂着60年後の1992年12月1日に開催された除幕式にはウラジオストク市ルースキー島地区のパベル・ザイキン議長が参列、ここから秋田県とロシア沿海地方との交流が始まった。



露国遭難漁民慰霊碑の除幕式にて(92年12月1日)

農業交流、蜂蜜輸入、「秋田犬条約」

佐々木氏は、農業組合法人新田水稲生産組合の代表理事をしている。2012 年 5 月にウラジオストクで開催された極東フォーラムに参加し、農業部会でエンザイム(酵素肥料)を活用した有機栽培による循環型農業について報告を行った。野菜クズや生ゴミを肥料化した土壌活性剤の開発にも取り組んでいる。一方、パベル・ザイキン議長は養蜂業を営んでいる。菩提樹の花の蜂蜜のおいしさに魅せられて、2013 年からロシア産蜂蜜の輸入し、販売している。

2015 年 3 月に秋田日ロ協会を設立後、ロシア沿海地方文化交流団を 4 回派遣、ウスリースク農業アカデミーで有機栽培農業についてプレゼンテーションを行い、ウラジオストク国立植物園に桜の木の植樹を行った。

2018年11月に秋田日ロ協会は秋田犬「力王」を沿海地方ロ日友好協会に贈呈、友好のシンボルとして「秋田犬条約」を締結した。

また、2020 年 2 月に沿海地方ハサン地区のスラヴィヤンカに拠点を置く海洋訓練センターと青少年ヨットチームの交流に関する協力の覚書を交わした。その後始まった新型コロナによりロシア青少年ヨットチームの秋田来航はまだ実現していないが、将来の交流を心待ちにしている。

JIC インフォメーション第 225 号 2023 年 7 月 10 日発行(11)

2023年6月3日/大阪日口協会講演会

講演録

「ロシア;変わる社会、変わらぬ人々」

浜野 道博 (モスクワ日本センター前所長)

今年3月末までモスクワ日本センターの所長をやっておりました。現在、日本とロシアとの人的交流はほとんど途絶えています。このウクライナ戦争の下で、ロシア現地の生活はどうなっているのか、ロシア人は何を思っているのかということですが、私なりの考えをお話ししたいと思います。

あらかじめお断りしておくと、私は日本センターをはじめ ロシアでいろんな仕事をやってきましたが、ロシアの人々が 何を考えているかということについて、ロシアのマスコミや テレビでどんな情報が流されているか見ても、身近なロシア 人と接触して話を聞いていてもわからないことがあります。 マスコミの情報も鵜呑みにせず自分で確かめていく作業が必 要ですし、私の話にしても「浜野さん、ちょっとそれ違うん じゃないか」ということがあるかと思います。

ともあれ、私なりに長年のロシア生活で集めた情報をもと に話をしていきたいと思います。

隣国ロシアと 50 年間のつきあい

私は 1977 年にモスクワ大学に留学しまして、大学卒業後はソ連専門商社でしばらく仕事をしました。およそ 50 年間、隣国ロシアとつきあって人生を送ってきました。 50 年のうち前半分がソ連、後半分がロシアとのつきあいです。

「日本センター」というのは、日本政府とロシア政府が合意して設立したロシアの NPO 法人です。ロシアの NPO 法人ですが、その運営費用は全て日本政府もちという組織です。ここで 12 年ほど働いてきました。ソ連時代にモスクワに駐在した分を含めてロシア在住は 18 年です。中央アジアのキルギスにも日本センターがあり、4年ほど働きました。

今はロシアと呼んでいますが、私の若い時はソ連という国でした。ソ連は成り立ちの経緯から非常に気丈な精神に満ちた独特の国でした。ロシアはソ連の承継国家とされていますが、今ロシアで起きている物事を考えていくうえで、ソ連の良いところ悪いところ全てをロシアが引き継いでいるのかどうかという問題も考えてみる必要があると思います。

客観的なデータが少ない最近のロシア

もう一つは、今ロシアで起きていることを統計数字や世論 調査結果なども使って、できるだけ客観的なデータを元にお 話しするよう努力しますが、ロシアではここ 3~4 年統計が なかなか出なくなっている、あるいは世論調査が自由にでき なくなってきているという問題があり、その意味でロシアの 人々がどういう考えを持っているのかということを正確に掴 むことが難しくなってきています。そのあたりは現地で生活 している者の肌身感覚で判断していくしかないというところ があります。

4~5 年前までは結構いろんな研究者がインターネットなどで積極的に意見を発表して、例えばモスクワ高等経済大学の社会学の先生が非常に面白い研究発表を出したりしていたのですが、ここ最近はピタっとなくなりました。今のロシア国内で発表されているものを基礎に何かまとまった話をすることは難しいのですが、そういうことにも注意しながら話を進めていきたいと思います。

「遠ざかるロシア」

4月の初めに日本に帰ってきて、いろんな方とお会いしロシアの話もする機会があったのですが、皆さん異口同音に口にするのは、「ロシアって遠くなったよね」ということです。これは本当に実感だと思います。直行便が無くなって物理的に遠くなったということもありますし、われわれが「こういう国だ」と思っていたロシアがそうでなくなったという意味でもロシアは遠くなった。特にこれまでソ連やロシアに関わってきた人の中にその思いが強いのではないかという気がします。

私も長らくモスクワで生活しましたが、直近で言えば2020年からコロナウィルスが広がって、ぱったりと外国人が来なくなった。飛行機が飛ばなくなって観光客が来なくなり、そのあたりからおかしな状況が始まったわけです。観光客の面から言えば、2014年3月にロシアがクリミアを併合したことでヨーロッパが制裁措置を加える。ロシアに来ていた多数の観光客が減り、最盛期には年間500万人いたヨーロッパ人観光客がいなくなりました。その代わり、その500万人をそっくり中国が穴埋めして、モスクワの街中はどこに行っても中国人観光客であふれている状況だったわけですが、それもコロナに続いて戦争が始まり、いなくなりました。ロシアは本当に孤立した国になってしまったなと、モスクワで生活していてもよく感じました。

日本ーロシア直行便の停止

遠く離れたモスクワで生活していると、「命の綱」は東京

JIC インフォメーション第 225 号 2023 年 7 月 10 日発行(12)

ーモスクワの直行便なんです。いざとなれば8時間くらいで東京に戻れるわけです。その直行便がなくなってしまいました。それだけでなく、日本とヨーロッパを結ぶ航空会社もシベリア上空の通過ができなくなって、遠回りするようになった。ということで今回モスクワから帰ってきたルートは、中東のアブダビ経由でした。アブダビで乗り継いで片道22時間くらい。それでも早い方です。極東のウラジオストクやハバロフスクは、2019年まではそれこそ一衣帯水で、成田から2時間もあれば着いてしまう一番近いロシアだったのですが、今となってみると逆に日本から一番遠いところになってしまいました。

ウラジオストクもハバロフスクも日本センターがあって、 それぞれ所長が在任していますが、日本に帰るとなると、一 旦モスクワに出て、モスクワから中東経由便に乗るというこ とで、地球をおよそ半周して戻ってくる状況になっています。 最近では、ロシア極東からはモンゴルのウランバートルへ出 てモンゴル航空で成田に飛ぶとか、イルクーツクーバンコク 便を使ってタイ経由で帰るとか、いろんな工夫がありますけ れども、いずれにしても非常に遠くなりました。

当然、日本とロシアの間の観光客もばったり途絶えました。 2019年には日ロの観光交流がそれぞれ10万人を超えて、これを2倍にする、3倍にすると花火が上がったのですが、コロナが蔓延して、次いで戦争が始まって、あっという間に火が消えてしまいました。

困難になったビジネス環境

郵便や DHL などのビジネスメールの引き受けも停止になっています。ですから書類のやりとりが大変です。ロシアから日本に送る国際ビジネス郵便 (EMS) は動いているのですけれども、日本からロシアに送る場合は EMS も DHL も引き受け停止です。ですから人が行き来する時に託送するとか、ソ連時代のようになっています。

戦争が始まって特に厳しくなったのが銀行送金。ロシアから日本や外国への送金、あるいは日本からロシアへの送金が非常に難しくなった。完全に途絶しているわけではないけれども、工夫が必要になって、送金に時間がかかるようになりました。

直行便がなくなり、郵便で文書のやり取りができない、送金決済が難しいとなると、これはもう商売を止めろというのに等しい。そんな厳しい状況の中で、日本の企業や商社の方々は工夫していろいろ努力を続けておられます。

安倍・プーチン時代には、日口関係を前へ推し進めようという積極的なモメンタムが働いていました。ロシア在住の日本人は最盛期には家族も含めて約2500名いたのですが、直近で今年の2月頃に聞いた話で700人くらいになっています。大使館や総領事館の職員を差し引くと、民間人は数百人に落ち込んでいる状況です。いつになったら以前のような日本と

ロシアの関係がもどってくるのだろうかと思うと、本当に切ない気持ちになります。

制裁と戦争のただ中のロシア経済

私の目から見たロシアという国を少しご紹介しておきます。

ロシア経済は、GDP(国内総生産)の規模からすると、す でに韓国に追い抜かれています。日本の三分の一くらいです ね。人口は日本と同じくらいですし、豊かな天然資源がある わけですから、本来ならもっと元気な経済が築けるはずなの ですが、残念ながらそうではない。2014年以降欧米から厳し い対ロ制裁が加えられ、戦争が始まって多額の出費を強いら れているということもあるのですが、指摘しておきたいのは、 ウクライナでマイダン革命が起こる少し前の 2013 年頃から ロシア経済は長期循環で見ると不況局面に入っているという ことです。2014年以降ロシア人の平均所得はまったく上がっ ていません。ロシア経済というのは大きな生きた実体ですか ら、これが 2013 年から大きな景気循環の中で低迷期に入っ ており、西側の経済学者がスタグフレーション(不況下のイ ンフレ)と呼ぶような、いくら経済刺激策を講じてもなかな か上向きにならない状況にあるわけです。まずはこの基本を 押さえておく必要があると思います。

意外なくらい平穏な日常生活

しかし、今のモスクワやロシアの人々の生活を見ると、意外なことに「これが戦争している国なの?」」と思うくらい平和な日常生活があります。土曜日や日曜日になると、今頃は気候もいいですから、親子連れで街中を散歩したり、遊園地に行ったりと、ごく普通の家族生活を見られる。スーパーは豊富な商品であふれています。商品不足で空になった棚とか、ソ連時代末期のように人々が物を奪い合って買うというような場面に遭遇することはありません。

ロシアは小売ビジネスの単位規模が大きくて、大型店が多い。特にモスクワ周辺では大きなフロアに食料品から日用品まで、何から何まで売っている大型スーパーが一般的で、これは日本でも同様ですが、大型店ではだいたい一万点から一万五千点もの商品を品揃えしています。生鮮食品売場では、イスラエル産のパプリカやトルコ産のミカンが売られていたり、バナナはほとんど南米産です。ロシア産の野菜はキュウリとトマトくらいで、ジャガイモも今はエジプトから輸入しています。そういう消費生活を送っています。メイドインヨーロッパの商品で一部入ってこなくなったものはありますが、ほとんど目立たないです。

ロシアは穀物や食肉などの基本食料を自給できる国なので、食料品が足りなくて困っているという状況はありません。 小麦粉や蕎麦の実など、庶民の食べ物は国が価格統制していることもあって、大幅な値上げはなく、制裁と戦争のただな かにあっても、穏やかな日常が続いているという状況です。









様変わりのモスクワの公共交通

ちょっとモスクワの街の様子を紹介しておきます。

写真は、モスクワの地下鉄と市電、電気バスです。昔のトロリーバスは一掃されました。全線一区でどこまで乗っても同じ料金です(60ルーブル)。年金生活者は無料パスがあります。車内は無料 Wi-Fi 完備、携帯電話の電源をとるジャックもついています。非常に近代的で、古いモスクワを知っている人は随分変わったねという印象を持たれると思います。

ロシア語で「これは電気バス」と書いてありますが、右下の写真は電気バスが充電しているところです。電池がバスの屋根の上に乗っていて、充電ポイントの下で充電しては市内を回るようになっています。日本のバスよりも大きいですし、乗り心地がいいです。全線一区ですから、モスクワの端から端まで行っても120円で行ける。モスクワは大変豊かな行政体で、コストはやはり行政が負担しているわけです。

「モスクワだけ見ていてもわからない」

そうは言ってもやはり、「モスクワだけを見ていると何もわからないよ」とロシア人からも言われます。ロシアというのは非常に格差の大きい社会で、同じロシア国民でも貧しい人と豊かな人が水と油のように別れてしまっているところがあります。大型小売店の話をしましたが、比較的低所得者層を対象にした安い商品だけを売るチェーン店が下位クラスのスーパーで出てきています。1万点とか1万5千点もの商品を扱っても仕方がない。売れないものは売れないので、本当に庶民が必要としている商品に絞って集中的に品揃えして販売するといった動きですね。

戦争の影響も出てきている。データの出所によって数字は変わりますが、ロシア軍に多数の死傷者が出ていることは事実です。戦場から戦死者がもどってくる。地方の墓地に新しい墓碑が目立つようになってきて、やはりロシア国内の雰囲気がだんだんと沈み始めているところがあろうかと思います。

官戦布告なき戦争

ただし、ロシアはウクライナに侵攻しましたが、宣戦布告はしていないのです。宣戦布告すると大変なことになります。

国連の安全保障理事会の常任理事国が他国に宣戦布告するとなると、これは明確に国連憲章に反します。ウクライナ侵攻は実質的に巨大な戦争ですけれども、ロシア政府は宣戦布告していません。「特殊軍事作戦」という名目で攻め込んだわけですが、宣戦布告していないので、ロシア大統領は憲法の規定に基づいて国民に全面動員をかけることができない。「部分動員」というのはそこから出てきたわけです。

プーチン政権は昨年9月22日、兵士不足を補うために部分動員をかけました。応募した兵士には給与を支払う。ノボシビルスクに行った人の話を聞くと、地下鉄の中に「徴兵に応募しよう」という広告があって、給料は1か月15万ルーブル。1ルーブル2円と計算すると1か月30万円。これはとても大きな金額です。モスクワは別として、地方の失業者が多い地域では、1か月30万円というのは破格の金額です。だから昨年9月から12月までの間に30万人の動員ができたわけですが、その大半が貧しい地域〜東シベリア、極東、北コーカサスあたりから兵士が出てきています。逆に言うと、そういう地方に戦死者としてもどってくる人も多いわけです。

「部分動員」をめぐる狂騒曲

部分動員に応募して契約すると月 30 万円ですが、仮に戦死すると家族に対して遺弔金500 万ルーブルが支払われます。これは約 1000 万円です。シニカルな話ですけれども、ロシア統計委員会の今年 3 月のデータによると、戦争が始まってから1年間、ロシア全体ではGDPが下がっているのですが、兵士をたくさん出している地方は GDP が上がっているのです。これは一時的なものですが、前線に出る兵士が多い地方の家庭には多くの給与が支払われる。場合によっては多額の遺弔金が支払われることで、これまでお金が行き渡らなかった地方に資金が行き渡り、そのことが如実に数字に出て来てきているわけです。

また日本でもニュースで流されましたが、昨年9月に部分動員が始まると、対象年齢の男性 (20歳代後半~50歳代前半)のうち約70万人がロシア国外に逃げ出してしまいました。この人たちの国外流出によって、また徴兵された人たちが戦線で死亡することによって、ロシアの人口ピラミッドは非常にいびつになってしまいます。第二次世界大戦でソ連は2700万人を戦争で失いました。2700万人の戦死者がいなければ、現在のロシアの人口は1億人多いと言われています。ロシアの人口は1億4千万人ですが、それが2億4千万人になる。2億4千万人だと当然その分国力は増えるし、GDPも増えます。それだけ人口動態の変化というものは国の運命に後々まで大きな影響を与えると思います。

打撃が避けられないロシア経済

戦争が始まってから西側の対ロ制裁パッケージは、もう 10 回出されています。金融分野の制裁では、銀行間決済ができ

JIC インフォメーション第 225 号 2023 年 7 月 10 日発行(14)

ない、海外送金が難しい。物流分野では、ロシアへの輸出品の運搬が難しくなっています。ヨーロッパからロシアへの輸出はこれまで大半が大型トレーラーでやっていたのですが、EUの制裁でロシア行きの大型トラックが止まり、物流がすっかり途絶えました。製造業では、欧米や日本から部品が入らなくなって生産が継続できなくなった。こういったことが、これからロシア経済にボディブローのように効いてくると言われています。

モスクワでは一見平和そうに見える生活が続いていますが、やはり戦争と経済制裁が日常生活の中に徐々に影響を及ぼしつつあるというのが実態です。

前代未聞の国際的孤立

昨年2月24日、ロシアはあっさりとウクライナに攻め込んでしまいました。「片手間で片付くだろう」と考えた見込み違いだったと言われていますが、このあたりがロシア社会に共通している欠点と言いますか、物事を簡単に考えてしまうんですね。その根本には、私はやはりウクライナや旧ソ連圏の国の人々に対する蔑視があると思うのです。軍事侵攻した当初は3日とか1週間でキエフは陥落するだろうと考えていた。そういう情報がウクライナ国内にも広まって、ウクライナの親ロシア派の人たちの間では、侵攻後すぐにでもロシア軍の戦車・装甲車がキエフの大通りで戦勝記念パレードをやるようなことが言われていたわけです。ところがゼレンスキー大統領はキエフに踏みとどまり、意外にもウクライナ軍が反攻に出て、ロシア軍は初戦で大きな損害を被り、今日までそれを取り返せずにいます。それに加えて前代未聞の国際的孤立です。

ロシアというのは、ロマノフ王朝の始まりから計算して過去400年間、ほとんどずっと戦争している国なんですね。どことも戦争していない年数は400年のうち数十年ぐらいです。ただ、ほとんどの戦争は国際協調の下でやっている。イギリスと手を組んだり、フランスと手を組んだり、ロシアだけ孤立して戦争をやったことはないのですが、今回のウクライナ侵攻ではロシアは完全に孤立しています。1979年のアフガン戦争はソ連の単独侵攻でしたが、この時はまだ社会主義圏の国が支持していました。ところが今回は国連総会でもロシアを支持する国はほとんどありません。この孤立感というのは、ロシア国内の政治家や評論家の意見を見ても、非常に深いものがあります。

高い大統領支持率

その一方で、プーチン大統領の支持率は8割もあります。これは、国内の公共放送が声をそろえて戦争支持、大統領支持を流す強力な官製プロパガンダ、それから戦争反対と口にしたり、SNSで発信したりするだけで「デマ情報」を広めた罪で捕えられる言論・思想統制の強化の影響ですが、ただ、

それだけでもありません。

面白いことに、イギリスの放送局 BBC が昨年この戦争が 始まってからロシア人にインタビューしてまとめた「ロシア 人の4つの言い分」というのがあります。

第 1 の言い分は、「アメリカだって同じことをやってるでしょ?」。2 番目は、「あなたにはあなたの真実があり、我々には我々の真実がある」。3 番目、「所詮あなたはロシア嫌いなんでしょ?」、と続きます。

ロシア人に対して「そうは言っても、あなただって政府への反対意見を持つことがあるのではないですか?」と聞くと、「国がやることに反対なんてできません」と言う。これが 4番目です。以上の4つがロシア人の代表的な言い訳なんだそうです。

ソ連時代のロシア人はどこに?

こういう話を聞くと、私などは1970年代から80年代にモ スクワで生活した時代の雰囲気と比べて随分違うなという気 がします。まだソ連時代でしたが、当時のソ連・ロシアの人々 は「戦争などまっぴらごめん」「二度と戦争したくない」とい う気持ちで、心は一つでした。「ロシア人は戦争を欲するか?」 (хотят ли русские войны?) という歌がよく歌われていま した。1980年代には第二次世界大戦を経験した人たちがまだ たくさん生きていましたし、戦死者を出した遺族もたくさん いましたから、戦争の悲劇が身近な記憶として残っていたわ けです。その中に放り込まれた私などは、「ああ、そういう事 なのか」と身につまされる思いをしたのですが、そういう経 験をした者からすると、「今のロシア人って、どうなってしま ったんだろう?」と思います。本当は戦争なんかやりたくも ないし、兵士の中にも「私はウクライナ人を殺したくない」 と思っている人がいると思うのですが、それがもう黙り込ん でいるという状況なんですね。

世論調査からにじみ出る本音

今のロシアで客観的な世論調査はなかなかできない状況ですが、いくつかの官製世論調査と独立系の世論調査(その代表はレバダセンター)を重ね合わせて見てみると、約8割が「戦争支持」と答える中で、本当に国家指導者の言うことを信じてこの戦争に賛成しているのは実際には3割くらい、次の3割くらいはどちらかと言えば不安を感じながら、聞かれれば一応支持する、そういう感じではないかと私は思います。

独立系のレバダセンターは、ロシア法務省から「外国のエージェント」と睨まれて活動しにくい状況に置かれていますが、それでも工夫しながら世論調査を続けています。例えば、「あなたは最近の日常生活に不安を感じることがありますか?」というように、ちょっと曖昧な質問をするわけです。こういう質問に対して6割ぐらいの人が「不安を感じる」と

JIC インフォメーション第 225 号 2023 年 7 月 10 日発行(15)

回答している。そのあたりの数字を見ると、公式には8割の 人が戦争を支持しているけれども、実際には6割ぐらいの人 は「できれば早く戦争を終えて欲しい」と考えていると見る こともできるわけです。ただし、これは勝って矛を収めると いうことです。ロシアが負ければいいと思っている人はごく 少数だと思います。

非公式情報源と厭戦気分の広がり

厭戦気分が広がっていることも事実です。昨年9月に部分 動員が始まったとき、70万人が国外脱出した背景にもこれが あると思います。

ロシアの人々が、毎日テレビで官製プロパガンダしか見ていないのかというと、そうではありません。そこはやはりソ連時代と違って、これだけインターネット、サイバー空間が広がってくると、もちろん当局はいろいろと締め付けを強化していますが、人々はそれを潜り抜けて国外のニュースにアクセスしています。例えば VPN を使って国外の拠点から海外のニュースサイトを見るといったことですね。それに、YouTube は今のロシアでも何故かまったく障害なく見られるのです。YouTube でウクライナの公共テレビを見ることもできます。その気になれば官製プロパガンダで流される情報とは違った情報を得る手段がいくらでもあり、それが厭戦気分の広がりの背景になっていると思います。

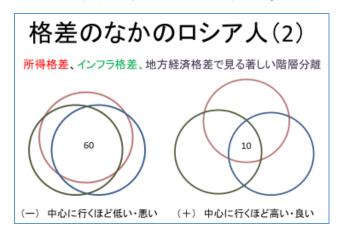
格差の中のロシア人

ロシア人についていうと、一般的なロシア人というのはも はや考えにくくて、その人の置かれた状況を具体的に見てい く必要があると思います。同じロシア人でも、お金持ちもい れば貧乏人もいます。都市部に住んでいる人か、農村に住ん でいる人かでも違います。ロシア社会は今や大変な格差社会 になっています。人によって生活の質が全然違うのです。

格差の指標はいくつかありますが、一番はっきりしているのは所得格差です。所得格差では、特定の公務員や企業経営者で極端なお金持ちがいる一方、多くの人々が平均月収 10万円程度の生活をしています。

それから地域のインフラ、つまり都市と農村の格差も大きい。よく言われるのですが、「モスクワはロシアじゃないよ」とロシア人は言います。モスクワは「ロシア1」、モスクワ以外が「ロシア2」で、「ロシア1」と「ロシア2」は全然違う国だと言うのです。まず、インフラが全然違う。先ほどお見せしたような新型車両は地方にはありません。サンクトペテルブルグに行ってもありません。あれはモスクワだけです。ですから都市と農村の差は非常に大きいのです。

ロシアは大きな国なので、地方経済も大きな差があります、 ヨーロッパロシア部と、ウラル山脈から東のシベリア、極東 地方、またロシア南部のコーカサス地方と、それぞれ地域経 済のレベルが全然違うのです。比較的豊かなのは欧露部です。 シベリアでも石油・天然ガスが出るところは豊かですが、貧 しいのはコーカサスや東シベリア、それから極東地域 (ハバ ロフスク州や沿海地方、サハリン州など)です。



10%の富裕層と60%の貧困層

図表は、3つの大きな格差を図示したものです。

所得格差、インフラ格差、地方経済格差を重ね合わせて、 中心に行くほど低い・悪いという円を描いてみると、この 3 つが重なる部分にロシア国民の約6割が住んでいることを示 しています。

逆に、中心に行くほど高い・良いという形にすると、要するに金持ちでインフラがよく整い、地域経済が発展している地域=中心部に住んでいるのは10%くらいです。

この 60%と 10%の格差はもう巨大なもので、ほとんど交わることがありません。そして、その間にややアッパーミドルの中間層が約 30%いるというのが現在のロシア国民の生活実態かと私は思います。



写真は、農村部の 年老いた女性が一 人テレビを見てい る図です。こうい う人達はパソコン やサイバー空間へ のアクセスを持っ ていません。毎日 見ているのは官製

プロパガンダです。こういう年齢、こういうカテゴリーの人 たちが、戦争支持者、現政権支持者のコアを形成しているの だと私は理解しています。

深刻な貧困の実態

こういった全体像を押さえた上で、貧しい人たちに何が起きているかお話ししたいと思います。

図で示した6割の貧しい人たちにぴったり重なるわけでは ありませんが、現在、ロシアには貯蓄ゼロの人たちが約6割 いると報道されています。それから重債務者が800万人いる。 重債務者と言っても、1億円とか2億円もの債務があるわけ ではありません。アパートや住宅の水道光熱費・共益費が支払えずに溜まっている人です。電気、水道、ガスの支払いができなくて、ずっと未払いになっているのが約800万件あるということです。生活に不可欠の電気や水道を止めるわけにはいかなくて、止めると人道問題を引き起こしますから、未払いがどんどん溜まっていく。これはロシア政府もいずれどこかで徳政令を出さないと解決はつかないと思います。

3年ぐらい前にロシア国家統計委員会が発表した数字ですが、ほぼ最低生活水準の生活を送っている3割ぐらいの家庭では、夏の履物が1足、冬の履物が1足しかない。こういうデータが発表されています。あれだけ気候の厳しい地域ですから、冬の履物が1足しかないというのは、本当に貧しい。厳しいと思います。

こういう貧困層の人たちがプーチン政権を支持している というのは逆説的ですが、どちらかというと豊かな人々の中 に今のロシア社会の問題点を鋭く受け止めて、改革が必要だ と思っている人たちがいると思います。しかし、そういう人 たちも今はやはり声を潜めていますね。

貧困層への国のサポート体制

深刻な数字に驚かれたと思いますが、かといってロシアの 人々が死線をさまよう状態に置かれているかと言えば、そう ではありません。皆さんちゃんと生きているし、餓死してい る人もいません。

一方では、貧困層に対する国のサポート体制が機能しています。特にモスクワでは手厚いサポートがあります。例えば、モスクワの住民は年金が割増しでもらえる。 わずかな金額ですが、本来の年金が月9000 ルーブルとすると、5000 ルーブルの割増しがあります。月14000 ルーブルで今のモスクワで生活していけるかというとまず無理だと思いますが、紅茶と黒パンだけで何とか生きていけないこともないくらいの金額です。モスクワでの最低生活費は25000 ルーブル(約5万円)ぐらいだと言われています。

モスクワ市には社会支援センターという組織があります。これは、日本で言えば生活保護所帯に類する人たち、支援を要する子育て家庭や独居老人に対して、支援センターからソーシャルワーカーが派遣されます。例えば、週一回住宅の掃除をするとか、週二回買い物を代行する。必要な時には病院への付き添いもしてくれる。ソーシャルワーカーの費用はモスクワ市の負担で、これらのサービスを無料で受けることができます。ただしこれはモスクワの例です。他の地域でも同じようなことがあるのかどうか、私はよく知りません。

所得再配分から見たロシア経済

確かに、現在のロシアは大きな格差社会です。けれども、 国の大きな経済のある部分を切り取って、それを国民に無償 で提供するということが、ソ連時代から行われていたわけで、 この国の経済ではそれが一つの伝統になってるんですね。私は、「所得再配分から見た経済」という視点でもロシアを見ておく必要があると思います。

よく言われることですが、モスクワの民間企業の平均賃金はようやく月額 10 万ルーブルを超すかどうかというレベルです。10 万ルーブルは大雑把に言って約 20 万円。年間 240万円です。平均年収 240 万円くらいの社会で、なんでモスクワにはベンツの高級車がこんなにたくさん走っているのか?

要するに、日本とか欧米諸国ではサービスを受ける側の有償負担になっている部分を、ロシア社会はかつてのソ連時代からずっと無償で提供してきたのです。例えば、大きな財産である住宅やアパートをほぼ無償で払い下げるといったことですね。こういう点を見ないと、数字だけ見ると GDP が低くて貧困層の多い国であるにもかかわらず、街中でベントレーやロールスロイスが走っているのは、理解できないです。もちろん、貧乏な人がベンツに乗っているのではなく、それなりに稼いでいる人が乗っているわけですが。

大金持ちの実相は不明

参考までに言うと、本当の大金持ちは大統領の周辺に何十人かいるわけですが、これは正確な数字がわかりません。名前も隠されています。例えばロスネフチ社のセーチン社長は、4年ほど前まではロスネフチ社の財務諸表が公表されていたので、そこから年収10億円ぐらいと間接的に分かっていたのですが、今はまったく公表されていないため分かりません。

こういうエピソードがあります。ロシア郵便という国営会社があります。郵便事業は元々儲からないものですが、ロシア郵便も大変な状況で、これを立て直すために民間のビジネスマンが社長にヘッドハンティングされました。その給料が最初は800万円ぐらいだったのですが、しばらくすると「これでは安い」ということで2500万円になった。800万円とか2500万円というのは、これは月給の話です。つまり月給2500万円。この時、BEDOMOCTIZという経済新聞の記者がシルアノフ財務大臣に「こんな高給を出して国の財政は痛まないのか」と聞いたら、シルアノフはなんと言ったか。「いや、大丈夫だ。これぐらい出さないと優秀な人はこない。この程度で国庫は痛まない」。

ですから今のロシアのトップクラスは、年収2億円や3億円は当たり前の世界です。そういう人たちがモスクワ市内に5億円とか10億円のマンションを持っていると聞いても誰も驚かなくなりました。そういう大金持ちがいる一方で、他方には月々5万円程度の最低生活をしている人々が、全く水と油の生活をしているというのが、今のロシア社会です。ロシアは世界有数の格差社会になってしまいました。

ソ連社会にはボランティアはなかった

ただ、やはり「こういう社会はおかしいよね」という人は

いるわけで、最近若い人の間からボランティア活動に参加する人が出てくるといった動きもあります。

私が初めてモスクワで暮らした1970年代~80年代のソ連社会は、市場経済とかサービス経済という考えがないと同時に、ボランティアとか市民社会という概念も育っていない社会でした。

モスクワの街中はほとんど集合住宅で、戸建て住宅はありません。5 階建とか6 階建の集合住宅で、建物に囲まれた中庭には、落ち葉を掃除したり、雪が積もると除雪したりする掃除人がいます。掃除人は公費で賄われています。その人が風邪をひいたり、たまたま不在のときに冬場雪が降って人が歩くと、通路がコチコチに凍ってしまうわけです。当然人が滑って転ぶ。お年寄りが転んで骨折するといったことが起こります。そういうことが続いたある2月の土曜日の朝、私は集合住宅の前から表通りまで20メートルほどの通路を、氷を割る道具で凍結した通路の氷を割って掃除をしたことがあります。気温は-15度くらいでした。約1メートル半の鉄棒の先に三角の鉄の刃先が溶接でつけてあって、その刃先でトントンと突くと棒の重みで氷がポロッと割れる。1時間半くらいかかって人が通れるよう綺麗に掃除をしました。

ところが、誰も私を助けようとしない。私がコツコツとやっているのを窓から見てることは分かるんです。日本だったら「大変ですね」とか言って出て来る人が一人や二人はいるでしょう。誰も出てこない。側を通る顔見知りの人も何も言わない。「なんだこいつ、変なことやってんな」という顔をするのです。

私は驚きました。「あれっ? これって何か変な社会だな」と。私はそれまでナイーブに、社会主義は協同社会で、みんな助け合って生きていく社会だと思っていたのですけれども、全然そうではなかった。ボランティアという言葉そのものがない。社会奉仕活動というのは、例えばレーニンの誕生日に共産主義土曜労働といってただで働く日がある。が、実はあれも無料奉仕ではない。出席簿がついていて、あとでちゃんと手当がつくのです。だから本当のボランティアはないわけです。その時初めて分かりました。みんな上から言われた通りにやっているだけだったのです。

ロシア社会に育ちつつある市民社会の芽

ところが最近は違います。この3月末までモスクワで9年間同じアパートに住んでいました。住人の全てではないですが、いくつかの家は、例えば子供のいる家庭は表に花を植えたり、ゴミが溜まっていると掃除をしたりしているのです。誰にも何も請求しません。子供たちへの教育と思っているのかもしれませんが、ボランティアです。

日本で言うとLINEですが、ロシアにはTelegramというメッセージのやり取りができるSNSがあって、集合住宅の住人はほとんど皆Telegramで繋がっている。そういう形で

共同住宅の問題をみんなが議論する場ができていて、小さいながらも一種のコミュニティが出来つつあります。

5月9日の戦勝記念パレードの後に、最近は「不滅の連帯」という一般人のパレード行われるようになりました。これは何かというと、戦争で亡くなった家族の写真を掲げて行進するわけです。おじいさんやひいおじいさん、おばあさんもいるでしょうが、亡くなった家族の写真を掲げてただ行進する。これは2016年にシベリアの一都市・トムスクで、民間人のイニシアティブで始まった運動です。ロシア社会でそれまでほとんど無視されてきた無名戦士というものを見直そうという運動で、私は「個の自覚」の始まりではないかと思っています。

世論調査結果に見る国民の隷属意識

しかし、ロシア国民の中にはまだまだ「長いものには巻かれろ」という隷属意識が強いです。

6年くらい前の世論調査ですが、「あなたは、国営放送、公共テレビが国の利益のために真実と違うことを放映しても構わないかどうか、それに対して異論を持つかどうか」という面白い設問がありました。6割の人が「構わない」と答えた。国の利益や安全保障のためであれば、真実でない報道をしても構わないと答えたのです。

もう一つの世論調査があります。これは比較的最近で3年くらい前の調査ですが、「あなたは、ロシア政府が行っている政治・政策の内容とその結果に対して、1億4千万分の一の責任があると思いますか」と聞いたら、75%の人が「責任はない」と答えました。同じ調査の中にあった「あなたは、あなたの生活を国が保障すべきだと思いますか」という質問には、同じく75%の人が「はい」と答えた。つまり、3年前に75%の人は、"国が自分の生活を保障してくれるのであれば、政府の政策に従います"と言っていたわけです。そういう意識がまだ残っているのではないかと私は思います。

こういった隷属意識が残る一方で、市民社会にボランティア意識や「個の自覚」といったものも育ちつつある。そういうものが混ざり合ったまだら模様で、現在のロシア社会は展開しているということだと思います。

ウクライナ戦争の行方については、まだ確かなことは言えません。ただ、私が見るところ、ロシア外交は我慢比べです。 正しいか正しくないかは関係ない。「アメリカや NATO だって、ユーゴ紛争やイラク戦争で国連無視の好き勝手をやってきたじゃないか」ということですから。対ロ制裁には反制裁で対抗する、我慢比べがロシア外交の特徴です。ウクライナ戦争の後ロシア社会はどうなるのか。また機会があれば皆さんと一緒に考えたいと思います。(了) JIC インフォメーション第 225 号 2023 年 7 月 10 日発行(18)

ウクライナ戦争 待ち望まれる停戦・和平協議

伏田 昌義 (国際親善交流センター副会長)

7月初め、大阪でのある集まりで「ウクライナ戦争の本質についてごく短く(15分で)話せ」と依頼された。以下はその際の発言要旨である。「ヒューマンライツ」誌(一般社団法人部落解放・人権研究所)の依頼で『ウクライナ戦争をどうとらえるか』と題し同誌5月号に寄稿した小文とともにお読みいただければ幸いです。

「この戦争の本質は何か?」と問われれば、米ソ冷戦終結後、21世紀の条件下での帝国主義戦争と言うほかない。ロシアは社会主義国ソ連の後継国家ではあるが、ソ連解体後30数年を経て今や国家独占資本主義が支配する国になっている。今次ウクライナ戦争は米英欧州の先行帝国主義諸国と後発帝国主義国ロシアとの勢力圏争い、下世話な言葉で言えば『縄張り争い』だと捉えることができる。

もちろん、先に手を出した方が悪い。ロシアのウクライナ 軍事侵攻は明らかな国連憲章違反であって、第一義的に非難 されるべきはロシアである。しかし、かつてソ連(ロシア) の勢力圏であった東欧・バルト諸国を NATO 軍事同盟に組 み込み (NATO 東方拡大)、さらにジョージア、ウクライナ へと食指を伸ばしロシアを挑発して戦争へと追い込んだ米英 NATO も悪い。ソ連解体後、冷戦の勝利に酔ったアメリカの 好き勝手な振る舞いがこの戦争を誘発したとも言える。

ウクライナは一方的に攻め込まれ、この縄張り争いの主戦場にされた犠牲者である。とはいえ、ウクライナでは 2014年2月のマイダン革命以降、米ネオコンと結びついた右派民族主義者が主導権を握り、東部ドンバス地域の内戦を解決するために独仏が仲介して締結されたミンスク合意 II の履行を拒否し続けた。ドンバスへの攻撃を続行し、NATO と軍事演習を繰り返して「やれるものならやってみろ」とロシアを挑発し続けたウクライナ側政治指導者にも責任の一端がないわけではない。

したがって、「自分の味方には甘く、敵対相手には辛く」ご都合主義的に「民主主義的価値」なるものを振り回す米英NATOの胡散臭さを感じ取っている中国、インドをはじめアジア・アフリカ・中南米の新興諸国はこの戦争から一定の距離を置き、ロシアを非難しつつ、米欧日の対ロシア制裁にも加わらない自律的な姿勢を取っている。これが、今次ウクライナ戦争をめぐる関係諸国の基本的な構図である。

それにしても、奇妙な戦争ではある。一歩間違えば第三次世界大戦=ロシアと NATO の全面核戦争に発展しかねない

危うさを孕みつつ、今までのところ、この戦争は「管理された戦争」の様相を呈している。

ロシアは宣戦布告なしに、『特別軍事作戦』という名目で軍事侵攻を開始した。ロシア国内でこれを戦争と呼ぶことは禁じられた。もっぱら志願兵と民間軍事会社に頼る軍事作戦を行い、昨年9月に兵力不足から急遽行った部分動員では70万人もの人々が国外に逃亡したと言われる。一方、戦争下にあってもロシア人は平気で海外旅行に出かけている。総動員をかけて全面的に国民を戦争に駆り立てている状況ではない。アメリカとNATOは、ウクライナを支援はするが直接ロシアと戦う意思はない。全面核戦争を回避するために、ロシアの出方を探りつつ小出しの軍事支援を続けている。最初は対戦車ミサイル・ジャベリンと無人機ドローン、次は射程を80㎞に制限した高機動ロケット砲HIMARS、そして独戦車レオパルト2、F16戦闘機の供与という具合で、それも「ロシア国内への攻撃には使用しない」約束での武器提供となっている。

ロシアとの全面戦争に至らない範囲でウクライナを軍事支援し、戦争をできる限り長引かせてロシアを弱体化させるのがアメリカ・NATO の戦略である。したがって、本年2月24日に中国の習近平主席が行った和平提案をバイデン政権は即座に拒否した。中国、インド、南アフリカなどが次々とロシア・ウクライナに和平仲介提案をする中で、日米欧 G7諸国は軍事支援を続行し、「もっと戦え!」とウクライナを焚きつけるが如くである。もっとも、一方的に攻め込まれたウクライナは米 NATO の制止を聞かず、クレムリンへのドローン攻撃や国境隣接州への越境攻撃など、折あらばロシア国内へと戦線を拡大しかねない。それがこの戦争の「管理」を難しくしている。

戦況は、昨年9月を境に攻守逆転した。ウクライナは8月末南部ヘルソン方面で大規模反攻を開始、ロシア軍の注意をひきつけた上で、北部ハルキウ州をごく短期間で奪還した。以来、ウクライナ側は反転攻勢の準備を進め、ロシア側は前線に長大な防御線を構築してこれに備えている。本年6月初旬に開始された反転攻勢は、しかし、その後1か月以上過ぎた現在も目覚ましい前進を遂げていない。

2月の中国の和平仲介提案の背景には、「23年夏ごろには 戦線は膠着し、ロシア軍優勢のまま終局に向かう」との中国 軍事科学院の分析があったと報道されている(日経新聞3月9日)。さらに4月中旬、米外交専門誌 Foreign Affairs に掲載されたリチャード・ハース外交問題評議会議長らの論文では「米国はあと一回くらいの決戦ができる程度の兵器は供与するが、それで決着がつかない場合は、ウクライナはロシアと停戦交渉を始めるべきだ」と休戦を呼びかけがなされた。

反転攻勢の行方はいまだ見通せない。激しい情報戦の中で、 何が真実か分からない状況が続いているが、どうやら戦況は JIC インフォメーション第 225 号 2023 年 7 月 10 日発行(19)

膠着状態に陥りつつあるように見える。ここにきて、G7 をはじめ日欧米諸国はウクライナ支援を強化しつつ、ウクライナの戦後復興の協議を開始した。他方で、G20 に集まる新興途上諸国(グローバルサウス)は対ロ制裁から距離を置きつつ、米欧 NATO への交渉力を強め、「戦後」を見据えた駆け引きを活発化させている。

ウクライナ戦争の停戦と和平協議が、いつ、どのタイミングで訪れるか見通すことは難しいが、それが近づいていること期待したい。「戦後」の世界の安全保障の枠組みを考えるためにも、今次ウクライナ戦争の背景と関係諸国の行動、そのあるべき外交政策を事実に基づいて検証する作業が今求められている。(2023.07.10.)

ウクライナ戦争をどうとらえるか

昨年2月24日に始まったウクライナ戦争は、1年以上経った現在も収まらず、長期化、泥沼化の様相を呈している。当初、1週間程度の短期戦(特別軍事作戦)でゼレンスキー政権を打倒し、親ロ政権を立てて、ウクライナの「非ナチ化」「非軍事化」「中立化」を図るとされたプーチン大統領の目論見は、ウクライナ側の予想外の抵抗によってもろくも崩れた。

ロシア側からも欧米側からも「すぐに降伏するだろう」と見られていた ウクライナがもちこたえ、さらに反撃に転じることができた要因はいくつ かある。戦車を押し立てて進軍すれば簡単に手を上げると見くびって いたロシア側の杜撰な計画、これに対してウクライナ軍は 2014 年以 降 NATO(北大西洋条約機構)と何度も軍事演習を重ね相当程度に 増強されていたこと、首都キエフに踏みとどまって抵抗を呼びかけた ゼレンスキー大統領の政治的リーダーシップ、何よりもウクライナの市 民社会がこの国難に対して一致結束して闘う姿勢を示したことである。 さらにアメリカ・NATO 諸国による対ロシア経済制裁とウクライナへの 軍事支援がこれを支えている。

ロシアによる軍事侵攻は、国際法的にも人道的にも容認できない暴挙である。それは「国際紛争を平和的手段で解決しなければならない」「武力による威嚇または武力の行使は慎まなければならない」と規定した国連憲章に明らかに違反している。

しかし、ロシアの暴挙を一方的に非難するだけでは問題は解決しない。この軍事侵攻の背景には、ロシアとウクライナの複雑な歴史関係、ロシアとアメリカ・NATO 諸国との間に積み重なった深刻な相互不信が横たわっている。

NATO 東方拡大が誘発した軍事侵攻

今回のウクライナ戦争の最大の要因の一つがNATOの東方拡大であることは、すでに多くの識者が指摘しているところである。

1989 年 12 月の冷戦終結と東西ドイツの統一を受けて、ワルシャワ 条約機構は解体されたが、NATO は解体されず、ソ連の後継国家で あるロシアを「潜在敵国」とする軍事同盟として存在し続けた。1997 年 米クリントン政権はポーランド系移民票欲しさに東欧諸国のNATO加 盟を公約、ジョージ・ケナンやヘンリー・キッシンジャーなど外交専門 家の警告を無視して NATO 東方拡大を推し進めた。冷戦終結時 16 カ国だった加盟国は、90 年代末からポーランド、ハンガリー、チェコ、ブルガリアなど東欧諸国、さらにバルト三国などの加盟が続き、現在 30 カ国に拡大している。

このように、かつてのロシアの影響圏を切り縮めた上に、アメリカは 2002 年に ABM 条約(弾道弾迎撃ミサイル制限条約)、2019 年には INF 条約(中距離核戦力全廃条約)からも一方的に離脱し、米ロの核 軍備管理交渉と安全保障環境を不安定化させた。 隣接するウクライナが NATO に加盟し、中距離核ミサイルが配備されれば、7~8 分でモスクワを直撃することができる。この脅迫感がロシアを駆り立て、ウクライナの「非武装化」「中立化」を図るとする無謀な軍事行動を誘発した。

ミンスク合意Ⅱの強要が「軍事作戦」の目的

ロシアとウクライナとの関係について言えば、直接的には 2014 年 2 月のマイダン革命とその直後のロシアによるクリミア併合から今回の事態は始まっている。

マイダン革命は2013年11月にヤヌコビッチ政権がEUとの連合協定の手続きを凍結したことに対する市民の抗議集会から始まった。最初は平和的だった抗議行動が過激化し、反政府勢力が暴力的衝突を引き起こして(政府側とデモ参加者双方で100名以上の死者)、ヤヌコビッチ大統領を失脚させた政変である。背後では米国が露骨に資金援助し政変後の反口・親NATO政権作りに介入していたことが明らかになっている。

これはロシア側から見れば選挙で選ばれた合法政権を暴力的に倒したクーデターであり、プーチン大統領は対抗措置として、ロシア系住民が多く住み、ロシア黒海艦隊の母港があるクリミア半島を、住民投票の結果を受入れる形で併合した。

対するウクライナの反口政権は、ロシア語を公用語から排除する「言語戦争」を開始。そのためロシア語話者が多い東部ドンバス地方(ドネツク州、ルガンスク州)ではウクライナ語強制への反発から独立宣言が出され、内戦が始まった。この紛争を収めるために結ばれたのがミンスク合意である。15年2月に独仏露ウの4首脳が締結したミンスク合意間では、東部での包括的な停戦と、親ロシア派地域に幅広い自治を認める「特別な地位」を与えることが決められた。しかしその実行は進まず、2019年大統領選挙で対ロ和平を訴えて当選したゼレンスキー大統領も、右派民族主義者や親NATO勢力の圧力によって、ミンスク合意の拒否へと転じてしてしまった。仲介役のドイツ、フランスもミンスク合意の実行を本気で進める熱意を示さなかった。

したがって、ミンスク合意 II を軍事侵攻というあからさまな暴力によってウクライナに強要することがプーチン「特別軍事作戦」の目的だったのだと言える。それまで一貫してミンスク合意の履行を求めて来たロシアは、武力侵攻によって自らミンスク合意を破棄してしまった。

民族自決をめぐる欧米のダブルスタンダード

プーチン大統領は、東部ドンバスにおいてロシア系住民に対する ジェノサイド(集団虐殺)が発生しているとして、虐殺から人々を救うと いう「大義」を掲げて軍事侵攻を正当化した。国際法的には、東部2州 の独立を「民族自決」の名において承認し、これら「人民共和国」から JIC インフォメーション第 225 号 2023 年 7 月 10 日発行(20)

の要請を受けて「集団的自衛権」を発動するという体裁をとった。ジェ ノサイドの有無については国際機関による厳密な調査が必要である が、仮にそれがあったとしても、ウクライナに対する一方的な軍事侵攻 を正当化できるとは思えない。

プーチン大統領は、1990 年代のユーゴスラビア紛争、なかでもコソボ自治州がセルビアからの独立めざしたコソボ紛争で、アメリカと NATO 諸国が「民族自決権」と「人道的介入」を名目にセルビアを空爆し、「主権と領土の保全」を求める国連安保理決議を無視してコソボ独立を承認したことをことあるごとに批判してきた。そして、それを逆手に取る形でクリミアの併合を強行し、東部 2 州の独立と併合を正当化した。「アメリカと NATO がやったのと同じことをして何が悪い?」というわけだ。

第二次大戦後の植民地独立運動への対応を見ても、民族自決権 と領土の一体性について欧米諸国は幾度となくダブルスタンダードを 重ねてきた。しかも超大国アメリカだけは、2003 年のイラク戦争に見ら れるように違法な戦争を起こしても誰も制裁できなかったし、誰もその 行動を止めることができなかった。

国際社会とりわけ発展途上国が感じてきた欧米諸国の過去の振舞いに対する不満と不信、さらに対ロ経済制裁によって引き起こされたエネルギー価格の高騰や食糧危機が、国連総会でのロシア非難決議に一定数の国が反対したり棄権したりする要因となっている。

その点でプーチン大統領の米欧諸国批判には一分の理がないわけではないが、だからといって同じ違法な戦争を起こしていいわけではない。

今次ウクライナ戦争がどのような形で終結するにせよ、戦後の新しい国際秩序は、以上見たような背景を考慮に入れて構築される必要がある。

中国の和平提案、これを拒否する米 NATO 諸国

開戦1年目にあたる2月24日に中国・習近平国家主席は和平仲介案を提案し、3月20日にモスクワを訪問してプーチン大統領と会談した。現在までのところゼレンスキー大統領も留保条件をつけつつこの和平案を「検討する」姿勢をとっており、習主席にウクライナ訪問を促している。

しかしながら、中国に停戦協議と戦後の国際秩序作りで主導権を 取られたくないアメリカと NATO は即座にこの和平案を拒否した。戦 争の長期化によって、国土が荒廃し夥しい人命が失われているにも かかわらず、欧米諸国はウクライナに「もっと戦え」とけしかけているか のようである。

米英仏独など NATO 諸国は、ロシアとの全面核戦争を避けるため 直接的には戦争に参加していないが、対戦車ミサイル、弾薬、装甲車、 戦車などの武器を大量にウクライナに供与することで事実上参戦して いる。その意味で NATO とウクライナはすでに一体化している。

史上最も強力な対ロシア経済制裁に参加し、岸田首相が戦時下の キエフ(キーウ)を訪問して激励した日本もまた事実上の参戦国になった

アメリカにとってはウクライナへの軍事支援を強化し、この戦争をできるだけ長引かせることが利益となっているようだ。何よりも武器が売れ

るし、ウクライナの戦場は最新兵器の実験場でもある。ロシア産石油ガスの禁輸措置は米石油メジャーにとって欧州の石油ガス市場を取り戻す絶好の機会だ。しかも戦争が長引けば長引くほどロシアを孤立させ、弱体化させることができる。

中国の和平仲介案というせつかく現れた機会が活かされるか否かは、これからの戦况推移と、G20 首脳会議、国連などを中心とする欧米諸国と中露および発展途上諸国(グローバルサウス)との交渉、攻めぎ合いにかかっている。

問われるべきは軍備強化ではなく外交力の強化

あらゆる国際紛争を武力によってではなく、平和的手段で解決する という国連憲章および日本国憲法に規定された諸原則に、今こそ立 ち返らなければならないと思う。

一方的に軍事侵攻に踏み切ったロシアは当然批判されなければならないが、一方で米 NATO 諸国はウクライナに軍事援助を拡大することでこの戦争を無制限に長期化させようとしている。またアメリカは、経済大国として肉薄する中国を「最大の敵」と位置づけ、軍事的包囲網の強化と経済戦争でこれに対抗しようとしている。

日本では、ウクライナ戦争を契機に「防衛力の抜本的強化」とか「敵基地攻撃能力」、「核共有」といった勇まし、議論が幅を利かせ、岸田内閣は昨年12月16日に「安保三文書」を閣議決定、日米安保条約を「対中国軍事同盟」へと変質させる方向へと大きく舵を切った。アメリカ、日本、韓国、オーストラリアなど「反中・反露」同盟諸国の間で現在進められているのは、『東アジア版 NATO』の結成とも言うべき軍事同盟・軍事協力の深化である。

しかしながら、眼前の戦争を停戦へと持ち込み、将来の戦争を未然に防止するために、日本がもっとも力を入れなければならないのは外交力の強化である。軍事力による抑止は、相手国の軍事力強化を呼び起こすだけで、決して抑止力とはならない。政治交流・経済協力・文化交流など、幅広い人的交流で相互の不信を取り除き、相互理解を深めることこそが、国際社会を長期的な平和と安定に導くことができる唯一の道である。(2023.03.31 記)

※「ヒューマンライツ No.422 2023 年 5 月」(編集発行;一般社団法 人部落解放・人権研究所)より転載

◇◆編集後記◆◇

- ▼本号では、「ウクライナ戦争下でのロシア語留学」の ミニ特集を組みました。ロシア以外の国へロシア語留 学する動きが広がっています。▼4 回目となった黒田 龍之助さんの連載コラム。JIC との長い関係も含めて 毎回楽しい話が続きます。興味とやる気さえあれば語 学の勉強はどんな形ででもできるという見本ですね。
- ▼モスクワ日本センター前所長、浜野道博さんの講演録からは、ロシア社会の今が透けて見えます。ウクライナ戦争とロシアの今後を考える参考資料として、ご一読ください。▼まだまだ困難は続きますが、JICは旅行・留学事業を継続し、日口交流の一翼を担い続ける決意です。(F)